

日時 2024年5月25日(土) 12:30~14:35

場所 The Okura Tokyo オークラ・プレステージタワー1階「平安の間」及びWeb (Zoom)

出席者 相澤 孝夫 (会長)

泉 並木、島 弘志、仙賀 裕、岡 俊明、園田 孝志、大道 道大 (各副会長)

牧野 憲一、中村 博彦(Web)、土屋 誉、前原 和平(Web)、亀田 信介、門脇 孝、三角 隆彦、土屋 敦(Web)、吉田 勝明、田中 一成、長谷川好規、武田 隆久(Web)、難波 義夫、津留 英智(Web) (各常任理事)

長尾 雅悦(Web)、成田 吉明、佐藤 雅彦、斉藤 正身(Web)、原田 容治(Web)、海保 隆、和田 義明(Web)、小川 聡子、林 達彦(Web)、岡部 正明(Web)、北村 立、渡辺 仁(Web)、阪本 研一(Web)、松波 英寿(Web)、谷口 健次、川口 鎮、松本 隆利、楠田 司、島田 永和(Web)、三上 聡司、東山 洋(Web)、上野 雄二(Web)、土谷 晋一郎(Web)、三浦 修(Web)、葉久 貴司(Web)、深田 順一(Web)、中房 祐司、副島 秀久(Web)、石井 和博 (各理事)

酒井 義法、梶原 優、石井 孝宜 (各監事)

梶川 昌二 (オブザーバー)

堺 常雄 (名誉会長)

今泉暢登志(Web)、末永 裕之(Web)、宮崎 瑞穂(Web)、小松本 悟、万代 恭嗣 (各顧問)

邊見 公雄、武田 泰生(代理:松久 哲章)(Web)、新木 一弘、高橋 弘枝(代理:吉川 久美子)(Web)、荒瀬 康司、大鳥 精司(代理:塩崎 英司)(Web)、権丈 善一(Web)、大西 洋英、太田 圭洋(Web) (各参与)

鈴木 克典(Web)、原澤 茂(Web)、大谷 哲也(Web)、岡田 俊英、登谷 大修、中井 國雄、徳田 道昭(Web)、東 謙二(Web) (各支部長)

永易 卓(病院経営管理士会 会長)

須貝 和則(日本診療情報管理士会 会長)

総勢79名の出席

相澤会長より開会の挨拶の後、定足数66名に対して出席37名(過半数34名)で会議が成立している旨の報告があり、島副会長の司会により議事に入った。

〔承認事項〕

1. 会員の入(退)会について

2024年度第1回常任理事会(2024年4月)承認分の下記会員異動について審査し、承認した。

[正会員の入会6件]

- ①国立病院機構・独立行政法人国立病院機構 函館病院(会員名:大原正範特別院長)
- ②医療法人・医療法人つるみ つるみ脳神経病院(会員名:靄見有史院長)
- ③医療法人・医療法人社団誠仁会 みはま病院(会員名:正井基之院長)
- ④医療法人・医療法人財団緑秀会 田無病院(会員名:丸山道生院長)
- ⑤特定医療法人・医療法人千寿会 つくし野病院(会員名:片山外大院長)

⑥社会医療法人・社会医療法人恵和会 恵庭第一病院（会員名：高坂研一病院長）

[正会員の退会 5 件]

①厚生連・新潟県厚生農業協同組合連合会 三条総合病院（会員名：岩渕洋一病院長）

②医療法人・医療法人社団曙会 佐々木外科病院（会員名：佐々木明理事長）

③医療法人・医療法人むすびの森 あきた病院（会員名：杉本峯晴理事長）

④私立学校法人・学校法人国際医療福祉大学 国際医療福祉大学病院（会員名：鈴木裕病院長）

⑤その他法人・立正佼成会附属佼成病院（会員名：市村正一院長）

[特別会員の退会 1 件]

①特別会員・医療法人大塚山会 オノクリニック（会員名：淡田修久理事長）

[賛助会員の退会 2 件]

①A会員・有限会社オフィス・スプレッド（会員名：服部紀子取締役）

②B会員・学校法人 I L P 学園 I L P お茶の水医療福祉専門学校（会員名：大久保芳隆学校長）

2024年 4 月 28 日～2024年 5 月 25 日受付分の下記会員異動について審査し、承認した。

[正会員の入会 4 件]

①地域医療機能推進機構・独立行政法人地域医療機能推進機構 佐賀中部病院（会員名：園畑素樹院長）

②日本赤十字社・日本赤十字社 岡山赤十字玉野病院（会員名：横山祐二院長）

③医療法人・医療法人社団盛翔会 浜松北病院（会員名：竹内和彦院長）

④医療法人・医療法人敬天会 武田病院（会員名：武田卓理事長・院長）

[正会員の退会 1 件]

①個人・信原病院（会員名：三森岐栄院長）

[特別会員の退会 2 件]

①特別会員・医療法人社団 ENEXT 平塚胃腸クリニック（会員名：須山出穂所長）

②特別会員・医療法人社団さわやか済世 葛飾健診センター（会員名：吉原一郎理事長）

[賛助会員の入会 2 件]

①A会員・株式会社イントラスト（会員名：桑原豊代表取締役）

②A会員・株式会社大塚製薬工場（会員名：曾木一男常務取締役）

[賛助会員の退会 1 件]

①D会員・1名

2024年 5 月 25 日現在 正会員 2,559会員

特別会員 138会員

賛助会員 260会員（A会員124、B会員107、C会員 4、D会員25）

2. 関係省庁及び各団体からの依頼等について

下記依頼事項について審議し、承認した。

(継続：後援・協賛等依頼 6 件)

①第25回日本認知症グループホーム全国大会の後援名義使用／公益社団法人日本認知症グループホーム協会

②「第53回日本医療福祉設備学会」の後援／一般社団法人日本医療福祉設備協会及び同学会長

- ③日本健康科学学会第39回学術大会の後援／一般社団法人日本健康科学学会
 - ④令和6年度 医療機器安全基礎講習会（第46回 ME 技術講習会）e ラーニング 協賛名義の使用／公益社団法人日本生体医工学会・公益財団法人医療機器センター
 - ⑤「第35回全国介護老人保健施設大会 岐阜」後援名義使用／公益社団法人全国老人保健施設協会および大会長
 - ⑥第45回第2種 ME 技術実力検定試験の協賛／公益社団法人日本生体医工学会
- （継続：委員等就任依頼3件）
- ①患者給食受託責任者資格認定委員会委員の委嘱／公益社団法人日本メディカル給食協会〔就任者…仙賀副会長（再任）〕
 - ②理事への就任／一般財団法人医療情報システム開発センター〔就任者…大道副会長（再任）〕
 - ③令和6年度「診療報酬改定 DX」タスクフォース構成員の就任／厚生労働省保険局〔就任者…大道副会長（再任）〕
- （新規：協力依頼1件）
- ①ニューレジリエンスフォーラムの国民運動に関する協賛金の協力／ニューレジリエンスフォーラム（金額…200,000円）

3. 人間ドック健診施設機能評価認定承認について

島副会長より報告を受け、下記6施設を認定承認した（5月審議分）。

（更新5件）

- ①No. 231 神戸健診クリニック（兵庫県）
- ②No. 272 淳風会健康管理センター（岡山県）
- ③No. 276 明治安田新宿健診センター（東京都）
- ④No. 281 永沢クリニック（東京都）
- ⑤No. 376 岡山済生会昭和町健康管理センター（岡山県）

（移転1件）

- ①No. 002 新赤坂クリニック青山（東京都）

4. 病院総合医 認定承認について／病院総合医（更新）認定承認について

仙賀副会長より以下の提案があり、承認した。

- ・病院総合医として23名の医師を適格と認定したので承認を願う。
- ・病院総合医の更新に関して41名の医師を適格と認定したので承認を願う。

5. 参与の退任及び就任について

島副会長より日本病院会定款第24条に基づき以下の提案があり、承認した。

・【退任】

楠岡 英雄（国立病院機構 前理事長）
 横手幸太郎（国立大学病院長会議 前会長）
 小川 彰（日本私立医科大学協会 前会長）
 有賀 徹（労働者健康安全機構 前理事長）

・【就任】

新木 一弘（国立病院機構 理事長）
 大鳥 精司（国立大学病院長会議 会長）
 炭山 嘉伸（日本私立医科大学協会 会長）
 大西 洋英（労働者健康安全機構 理事長）

6. 《社員総会》2023年度事業報告（案）について

相澤会長より以下の説明があり、社員総会への上程を承認した。

- ・1. 会務報告：日本病院会は2023年度の活動において、設立主体の公私の区別なく日本の病

- 院全体の発展と進歩を実現するために組織の充実・強化を図ってきた。会員数拡大活動を行い、医師の働き方改革に関するセミナー開催し、看護師の確保に関する提言書、入院料引上げに対する嘆願書、かかりつけ医機能に関する意見書の提出を厚労大臣に対して行った。日病の会議におけるこの1年間の議論を通して本会の意見を一定程度まとめることができた。
- ・ 2. 会員の状況：正会員が45増加し、2,555会員となった。2022年度の収支状況を踏まえて会費の減額を実施した。
 - ・ 3. 社員総会・理事会・常任理事会：社員総会2回、理事会6回、常任理事会6回を開催。
 - ・ 4. 委員会・部会：26委員会、6小委員会、1ワーキンググループを合計93回開催し、延べ出席人数は684名であった。
 - ・ 5. セミナー・研修会・講習会：セミナー・研修会を14回開催し、延べ参加者数は8,199名であった。
 - ・ 6. 診療情報管理士通信教育：1,317名が入学し、今期の認定者は1,692名であった。入学希望者が減少傾向にあることが懸念される。
 - ・ 7. 病院経営管理士通信教育：入学生43名、卒業生44名、卒業生総数は1,247名となった。卒業生が病院経営のマネジメントを担い、病院を発展させていくことが重要である。
 - ・ 8. 情報統計：出来高算定病院経営支援事業及び日病モバイル事業に取り組んだ。
 - ・ 9. QI プロジェクト：参加施設数は一般病床366、療養病床25、精神病床42の計433施設であるが、このところ参加数の伸びが少ない。ぜひ500施設以上の獲得を目指したい。
 - ・ 10. 看護：看護師等確保のための具体的方策を検討し、「看護師の確保等に関する提言」を提出した。
 - ・ 11. 情報発信：「日本病院会ニュース」を22回、「日本病院会雑誌」を12回発行した。
 - ・ 12. 要望・提言・調査：要望・提言の実施回数は15回、調査の実施回数は7回であった。
 - ・ 13. 医療と地域の明日を考える会：自由民主党議員連盟との連携による活動を行った。
 - ・ 14. 国際医療福祉大学との共同研究：会員向けの医療機能情報の公開に取り組んだ。日本病院会のホームページにある「日病データ」を会員病院でぜひ活用してほしい。
 - ・ 15. 国際活動：アジア病院連盟、国際病院連盟、WHO-FIC、IFHIMA の会議に参加し活動した。
 - ・ 16. 支部長連絡協議会：協議会を3回開催した。まだ支部ができていない県があるので、支部づくりに協力を願う。
 - ・ 17. 第73回日本病院学会：9月21～22日に仙台国際センターで開催し、参加総数は1,687名であった。
 - ・ 18-1. 日本診療情報管理学会：理事会3回、評議員会2回、総会2回、各種委員会12回を開催した。
 - ・ 18-2. 第49回日本診療情報管理学会学術大会：9月14～15日に青森県の十和田市民文化センターで開催し、登録者数は1,159名、オンデマンドアクセス数は1万3,532であった。
 - ・ 19. 全国病院経営管理学会：理事会4回、総会1回、運営会議5回、各種委員会88回、勉強会6回、大会1回及び研修会10回を開催した。
 - ・ 20. 病院経営管理士会：理事会3回、総会1回、研修会2回を開催した。
 - ・ 21. 予防医学活動：人間ドック健診施設機能評価認定施設数は429施設となった。
 - ・ 22. 国際モダンホスピタルショウ2023：7月12～14日に東京ビッグサイトで開催し、出展社数は254社、来場者数は3万2,919名であった。
 - ・ 23. メディカルジャパン：東京展を10月11～13日に幕張メッセで、大阪展を1月17～19日にインテックス大阪で開催した。来場者数は、それぞれ1万6,016名と9,832名であった。
 - ・ 24. 四病院団体協議会：総合部会12回、日医・四病協懇談会8回を開催した。
 - ・ 25. 日本病院団体協議会：代表者会議12回、診療報酬実務者会議12回、ワーキンググループ

1回を開催した。

- ・この1年間の会員の努力で日本病院会の事業が充実し、会員病院数も増加してきているが、さらに努力を重ねて本会を強化する必要がある。

7. 《社員総会》2023年度決算報告（案）について

仙賀副会長より以下の説明があり、社員総会への上程を承認した。

- ・貸借対照表：資産の部では、流動資産合計は前年度から1億2,800万円増加の5億4,600万円、固定資産合計は1,100万円減の30億3,100万円、資産合計は1億1,700万円増の35億7,700万円となった。負債の部では、流動負債合計が前年度から3,400万円増の1億9,900万円、固定負債合計は6,700万円減の3億8,100万円、負債合計は3,300万円減の5億8,100万円となった。正味財産の部では、正味財産合計が前年度より1億5,000万円増の29億9,500万円になり、負債及び正味財産合計は35億7,700万円となった。
- ・正味財産増減計算書：一般正味財産増減の部の経常収益では、受取会費は前年度から600万円減の3億2,400万円、事業収益は7,000万円増の8億300万円、受取負担金は900万円増の3,500万円、雑収益は500万円増の2,500万円になり、経常収益計は8,200万円増の12億400万円となった。経常費用では、人件費は前年度から1,600万円増の3億6,400万円、事業費は6,300万円増の4億8,300万円、管理費は1,600万円増の2億円、経常費用計は9,700万円増の10億4,800万円になり、当期経常増減額は前年度から1,400万円減の1億5,600万円となった。経常外増減の部では、法人税、住民税及び事業税732万円を差し引いた当期一般正味財産増減額は1億4,900万円となった。
- ・計算書類に関する注記：ここでは日本病院学会及び日本診療情報管理学会学術大会に関する会計方針の変更をはじめ、重要な会計方針や特定資産の財源内訳等について記載している。
- ・附属明細書：日病業務は1億8,200万円増、会館保有は800万円減、日病学会は200万円増、内部支部の収支は29万円減、日本診療情報管理学会の収支は2,000万円減になり、合計では1億5,600万円の増となった。
- ・附属明細書：固定資産増減及び引当金の増減及び現金預金や未収金など科目ごとの明細を記載しているので、資料を参照願う。
- ・収支計算書：日病の本体業務とホスピタルプラザビルに関わる収支について決算額を比較した。全体的に収入額を低く抑え費用を高く見積もるなど堅めの予算計上をしており、決算額は1億8,500万円増となった。詳細については資料を参照願う。
- ・監査法人より理事会宛てに「独立監査人の監査報告書」が提出されているので、一読を願う。

8. 《社員総会》理事の交代について

相澤会長より以下の説明があり、社員総会への上程を承認した。

常任理事の選任は理事会の承認事項のため、社員総会での理事就任が承認されることを前提に停止条件付として江面 正幸氏を常任理事として承認した。

・【辞任…6名】

常任理事	長谷川好規	(名古屋医療センター)
理事	長尾 雅悦	(北海道医療センター)
理事	新木 一弘	(東京医療センター)
理事	小倉 滋明	(岩見沢市立総合病院)
理事	海保 隆	(国保直営総合病院君津中央病院)
理事	佐藤 清治	(佐賀県医療センター好生館)

・【選任… 6名】

- 常任理事 江面 正幸（仙台医療センター 院長）
- 理事 饗場 郁子（東名古屋病院 院長）
- 理事 松村 泰志（大阪医療センター 院長）
- 理事 西川 秀司（市立札幌病院 院長）
- 理事 野村 幸博（総合病院国保旭中央病院 院長）
- 理事 久貝 忠男（沖縄県立北部病院 院長）

9. 《社員総会》社員の交代について

相澤会長より以下の説明があり、社員総会への上程を承認した。

・【山形県】

- 前社員：武田 弘明（山形県立中央病院 名誉院長）
- 新社員：鈴木 克典（山形県立中央病院 院長）

〔報告事項〕

1. 各委員会等の開催報告について

日本病院会の下記委員会等の報告があり、了承した。

(1) 第1回 支部長連絡協議会（4月27日）

報告は資料一読とした。

(2) 第1回 病院総合医評価・更新委員会（5月7日）

牧野常任理事より、以下の報告があった。

- ・病院総合医認定審査を行い、23名全員を適格とした。
- ・病院総合医更新審査を行い、41名全員を適格とした。
- ・病院総合医の更新の基準の厳格化について議論したが意見の一致に至らず、各論点をまとめて病院総合医認定委員会に諮ることとした。
- ・病院総合医活動の連携・統合を目指して、日本病院会、全日本病院協会、全国自治体病院協議会の3団体で代表者会議を開催する。日病からは新木参与と仙賀副会長が出席する。

(3) 第1回 QI委員会（5月9日）

仙賀副会長より、以下の報告があった。

- ・QI プロジェクト2023フィードバック説明会についての報告を受けた。オンラインで開催され、100施設の参加があった。
- ・QI に取り組むことによる診療報酬の加算はあまり期待できないことが分かったが、病院にとっては重要な取組なので、ぜひ推進してほしい。
- ・24年度のQIプロジェクト2024の内容について議論した。
- ・第74回日本病院学会において本委員会が開催するQIのシンポジウムについて検討した。

(4) 第1回 病院総合力推進委員会（5月9日）

仙賀副会長より、以下の報告があった。

- ・委員1名の交代について有賀委員長より報告を受けた。
- ・第74回日本病院学会で行うシンポジウム「社会の変化を見据えた病院医療の進化」について議論した。第75回日本病院学会で栗原委員が学会長を務めるので、それにつながる内容とする。

(5) 2024年度 医療安全管理者養成講習会アドバンスコース（東京会場）（5月11日）

仙賀副会長より、以下の報告があった。

- ・本年度最初の講習会であり、参加者は65名であった。
- ・看護師、医師をはじめ多様な職種から参加者がある非常に難しい内容のコースであるが、

講師陣が一生懸命に指導に取り組んでいる。

(6) 第1回 診療報酬検討委員会 (5月13日)

島副会長より、以下の報告があった。

- ・令和6年度診療報酬改定のポイントについて説明を受けた。施設基準に定められている研修要件の中で、日病で実施できる研修を増やしていく。
- ・2024年度病院経営定期調査を昨年同様に3病院団体の合同調査として実施するので、協力を願う。
- ・令和6年度診療報酬改定要望事項の結果について、以下のとおり評価した。
 - 要望1「入院基本料および入院食事療養費の増額」→△
 - 要望2「入院基本料または診療録管理体制加算の引き上げ、評価項目の新設」→○
 - 要望3「医師事務作業補助体制加算の引き上げ」→○
 - 要望4「精神科急性期充実体制加算の点数引き上げ」→△
 - 要望5「精神科救急急性期医療入院料の精神科救急医療体制加算における算定対象の拡大」→×
 - 要望6「新規入院患者6割以上の入院形態の見直し」→×

(7) 第1回 病院総合医認定委員会・第1回 専門医に関する委員会 合同委員会 (5月14日)

副島理事より、以下の報告があった。

- ・病院総合医審査結果及び病院総合医更新審査結果について病院総合医評価・更新委員会から報告を受け、これを承認した。
- ・病院総合医の更新の基準については、細部を詰めて近々に提示する。
- ・病院総合医の連携・協働について、日本病院会、全日本病院協会、全国自治体病院協議会の3病院団体に統合的なプログラム作成を検討する。
- ・今年度の総合医育成プログラム募集の告知が8月、受付が9月上旬から始まるが、まだプログラムに参加している病院が少ないので、ぜひ参加を願う。

(8) 診療情報管理士通信教育関連

武田常任理事より、以下の報告があった。

①第3回 医師事務作業補助者コース小委員会 臨時会議 (3月19日)

- ・診療報酬改定で医師事務作業補助体制加算1の要件に「医師事務作業補助者の勤務状況および業務内容の定期的な評価」の項目が追加されたことを検討し、業務定義が明確化されており評価及び育成に関わる計画性があるなら特別なことではないとの結論を得た。
- ・病院で利用されているITツールは多数あるので、代行入力に関する講義は全体概要や注意点についての説明にとどめることとした。

(9) 診療情報管理学会関連

末永顧問より、以下の報告があった。

①第118回 診療情報管理士生涯教育研修会 (3月16日)

- ・対面での参加者48名、オンデマンドでの参加者281名、合計329名が参加した。
- ・プログラム内容は、①ロボット支援下手術について、②糖尿病(医学知識)、③2024年度診療報酬改定(トリプル改定)についてであった。
- ・参加者アンケート結果によれば、理解度は対面もオンデマンドもかなり高かった。

②第1回 生涯教育委員会 (4月22日)

- ・診療情報管理士認定指導者の新規申請に関するスケジュール及び認定指導者更新の書類審査について議論した。
- ・生涯教育委員会では座長と講師を決定、研修会テーマの検討等が行われた。

③第1回 POS等検討委員会（5月7日）

- ・2024年度の委員会活動では、①質を担保した標準化退院時サマリーの確立、②電子カルテ情報共有サービスへの参画推進、③患者の生活機能サマリー構築について検討する。
- ・「退院時サマリー作成に関するガイダンス」をいかに普及させていくかが今後の課題である。
- ・時間や場所によらずコアな診療情報を獲得できる仕組みとしての随時サマリー構想の意義を確認し、その周知を図ることとした。
- ・患者の生活機能サマリーの構築に関連して「鹿児島モデル」の取組が紹介された。

2. 日病協について

下記会議の報告があり、了承した。

(1) 第223回 診療報酬実務者会議（5月15日）

報告は資料一読とした。

(2) 第233回 代表者会議（5月24日）

相澤会長より、以下の報告があった。

- ・診療報酬実務者会議の報告において集中室管理の施設基準が話題となり、複数の大学病院でもICU基準が取れなくなっており何とかせねばならないとの意見が出て検討課題とした。

3. 中医協について

太田参与より下記会議の報告があり、了承した。

(1) 第589回 総会（5月15日）

- ・①医薬品の新規薬価収載等、②最適使用推進ガイドライン（報告）、③最適使用推進ガイドライン、④費用対効果評価の結果を踏まえた薬価の見直し、⑤DPCにおける高額な新規の医薬品等への対応、⑥在宅自己注射、⑦答申書附帯意見に関する事項の検討の進め方について議論した。
- ・現在の中医協は、診療報酬制度のメンテナンスを主に行っている。
- ・本年5月22日に収載予定の18成分・22品目の新医薬品一覧表が示された。高額な薬剤が多くなってきている。
- ・薬価は中医協での議論により都度修正される算定ルールに従って決定されていくが、新薬価算定における係数を見てみると、物価や人件費の上昇などが既にビルトインされた形でそのルールが作られている。
- ・用法用量変化再算定及び市場拡大再算定品目の対象となった①イミフィンジ点滴静注、②ユルトミリスHI点滴静注、③ソリリス点滴静注について、その薬価が見直された。
- ・類似薬選定のための薬剤分類に、令和5年5月～6年4月に薬価収載された41成分が追加された。
- ・ネモリズマブ（遺伝子組換え）について、最適使用推進ガイドラインが示された。
- ・最適使用推進ガイドラインの策定または改訂に伴い、ミチーガ皮下注用60mg シリンジ及びミチーガ皮下注用30mg バイアルについて保険適用上の留意事項が示された。
- ・再審査期間を終えたキイトルーダ点滴静注100mg について、最適使用推進ガイドラインの簡略化を行う。
- ・ソーティクツ錠 6mg について、費用対効果評価結果に基づく価格調整が行われ、薬価が下げられた。
- ・費用対効果評価対象品目として現時点で評価中の医薬品17品目の一覧表及び費用対効果評価終了品目として37品目の一覧表が示された。

- ・DPC における高額な新規の医薬品等への対応として、出来高で算定するルールがウィフガー
ート点滴静注400mg に適用されることとなった。
- ・保険医が投薬することができる注射薬にベドリズマブ（遺伝子組換え）及びミリキズマブ
（遺伝子組換え）を追加する案が示された。
- ・令和6年度診療報酬改定の答申書附帯意見の中から今後検討する必要のある事項の一覧が
示された。

4. 四病協について

下記会議の報告があり、了承した。

(1) 第2回 医業経営・税制委員会（5月9日）

- ・令和7年度予算概算要望に関する案が四病協総合部会で承認されたので、今月中に要望書
を厚労省に提出する予定である。
- ・令和7年度税制改正要望について、予算概算要望の場合と同様に重点項目を設定すべきで
あるとの意見が出されたので各団体に持ち帰って検討し、再び四病協に提出する。
- ・医療界は人件費率が高い業界であり、賃上げ促進税制における税額控除の上限が厳しいの
で、その緩和について要望の提出を検討する。
- ・大学からの派遣医師の給与支給を税込みではなく手取りにしてほしいとの意見があるので、
日精協で実態を調査し、四病協の病院医師の働き方検討委員会で検討する。
- ・控除対象外消費税については医療機関ごとのばらつきが大きいいため、それをデータとして示
すためにはかなりの労力と費用がかかるので、適切なその調査方法や規模等を検討する。

(2) 第2回 医療保険・診療報酬委員会（5月10日）

報告は資料一読とした。

(3) 第2回 総合部会（5月22日）

相澤会長より、以下の報告があった。

- ・医師養成過程を通じた医師の偏在対策等に関する検討会についての報告を受けた。
- ・今後の医師養成数について、令和8年度の募集数は令和6年度と同じとすることになった
が、その後どうするかについて検討課題となる。
- ・医師数を変えることより医師の偏在を直すことのほうが重要ではないか、偏在の是正対策
の中で多少とも効果があったのは地域枠だけである、地域ごとの偏在だけでなく働く場所
の偏在、勤務医と開業医の偏在が生じていることが問題ではないか等の意見が出された。
- ・財政審の春の建議において診療報酬で手当することによって医師の偏在を改善する方策が
示されたことに対して、ほとんどの医療関係団体は反対をしていたが、病院が地域でいかな
る機能を果たしているかに基づく診療報酬の重要性を評価してもよいのではないか。
- ・地域の人口等に合わせた診療所数の上限の設定が必要ではないかとの意見も出され、その
方法等について議論となった。
- ・後発医薬品が安定供給できない原因の一つとしてメーカーの多くが少量多品目生産に目を
向けていると、原材料の確保も難しくなっている中で、国が対策を打つべきであるとの意
見が出ていたため、それについても今後、日病の理事会で検討していきたい。

(4) 日本医師会・四病院団体協議会懇談会（5月22日）

相澤会長より、以下の報告があった。

- ・①新たな地域医療構想、②医師偏在対策、③低炭素社会実行計画新たな目標の策定につい
て議論した。

5. 関係省庁等及び関係団体の各種検討会の開催報告について

下記会議の報告があり、了承した。

(1) 第1回 日本准看護師推進センター 理事会 (5月17日)

仙賀副会長より、以下の報告があった。

- ・令和5年度(第5期)の計算書類及び事業報告の件について報告を受けた。
- ・全国47都道府県の全てが日本准看護師推進センターと契約を結び試験問題を作成、本年2月に准看護師試験を実施した。受験者数は合計1万2,730人、合格率は98.2%であった。
- ・日本准看護師推進センターの理事と監事の一部に交代があった。
- ・推進センター設立時に日病を含む4病院団体から2,700万円の融資をしているが、2022年度からその返済が開始され、今年も利息を含めた金額が各団体へ返済される。

(2) 第3回 新たな地域医療構想等に関する検討会 (5月22日)

岡副会長より、以下の報告があった。

- ・本検討会では、2040年頃を見据え、医療・介護の複合ニーズを抱える85歳以上人口の増大等に対応できるよう、病院のみならず、かかりつけ医機能や在宅医療、医療・介護連携等を含め、地域の医療提供体制全体の地域医療構想として新たな地域医療構想を検討する。
- ・本検討会に参画する各団体からヒアリングを行っているが、今回その第2回目として7団体から聴取を実施した。
- ・日本医療法人協会からは、病院機能の明確化、地域の実情に合わせた医療圏の見直し、人材の確保等の必要性等について発言があった。これらについては病院団体は皆、ほぼ同じ方向性である。
- ・日本歯科医師会と薬剤師会からは、病院との連携、医療DX化による患者の医療情報の共有の必要性等について発言があった。
- ・東京都からは、高齢化の進展とともに独居老人が地方よりも増えており問題になっていることについての発言があった。
- ・国際医療福祉大学からは、高齢化社会を迎えて認知症がこれから増えるであろうが、その増え方は従前の予想よりは少ないとの発言があった。
- ・各団体の発言を聞いていて、医療の提供状況や人口分布は地域によって違うので、地域医療構想を総論的に決めても、それを地域ごとに落とし込む作業は非常に難しいと実感した。
- ・来週中にヒアリングをさらに2回行い、1巡目の議論を一旦終え、中間取りまとめを夏から秋に行う予定である。

6. 日本病院会・全国病院経営管理学会 共同事業について

報告は資料一読とした。

7. 令和6年 春の褒章・叙勲について

島副会長より以下の報告があり、了承した。

- ・日本病院会関係者から今回7名が受章した。

瑞宝中綬章：福永 秀敏	元(独)国立病院機構南九州病院長 (医療安全対策委員会委員長)
瑞宝小綬章：永井 庸次	元 ひたちなか総合病院長(元 社員、元 茨城県支部長)
瑞宝双光章：安倍 淑子	(独)労働者健康安全機構東北労災病院看護部長
瑞宝双光章：西 昂	西病院理事長(社員)
瑞宝双光章：松田 武史	(医)神鋼記念会神鋼記念病院検体検査室長
瑞宝双光章：三浦 修	(一財)防府消化器病センター防府胃腸病院長(理事)
瑞宝単光章：柏木美佐子	(独)労働者健康安全機構長崎労災病院看護部長

- ・三浦理事より、受章者を代表して挨拶があった。

8. 第1回常任理事会 承認事項の報告について

報告は資料一読とした。

9. 経理規程の改正について

高橋事務局次長より以下の報告があり、了承した。

- ・日本診療情報管理学会学術大会が使用している会計システムと日本病院学会が使用している会計システムを一体化するに当たり、経理規程上その会計方法を明確化するために改正を行う。
- ・日本病院学会及び日本診療情報管理学会学術大会の会計について、それぞれの職務執行責任者である学会長が管理している収支の計上時期及び会計方法を明確化した。

以上で閉会となった。